

相談支援つうしん

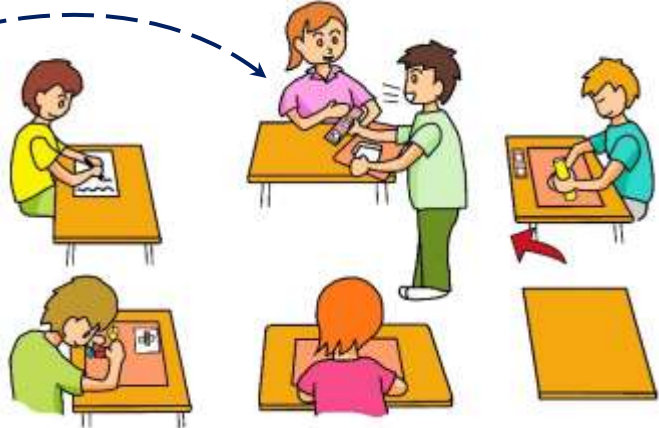
<第54号>2019 6月19日
県立湘南養護学校 支援連携部
相談支援係 ~教師編~

～校内の風景～ 社会参加に向けて（小学部の取り組み）

小学部では、自立課題を行う際に下のような形態をとることがあります。机の配置の仕方は違う場合もありますが、おおむね真ん中に教師が1人おり、5、6人の児童を指導します。この形態では、子ども1人ひとりの自立課題は定着しており、課題が終わるごとに教師に報告するようになっています。

報告の形態は次の通りです。

- ✦ 音声
- ✦ 絵カード
- ✦ 絵カード+音声
- ✦ 絵・文字カード+音声
- ✦ 文字カード
- ✦ 文字カードと音声 など



報告を受けた教師は、児童の課題をチェックして新たな課題を渡します。児童の実態に

応じてトレイや机に個別のスケジュールが貼ってあり、自立課題がすべて終わるまでの見通しを示している場合もあります。また、重点的に新しい学習内容を教える際には、1対1（または1対2）で他の教師が指導します。そのため、この小グループ指導の形態はメンバーが固定されているのではなく、新規の内容は個別で行い、自立学習は小グループという段階に分けています。小学部低学年の頃からこうした学習形態をとっておくことで、高等部の校内実習や卒業後の就労をイメージできるように工夫がされています。

また、この形態で行うことで、予想していなかった効果もあったそうです。5年生のAさんは、課題が1つ終わっても次に何をすべきか分からず、次の課題に移らずいたずらをしたり先生の注目を引いたりしていたそうです。しかし、報告するという流れを作ることで課題が“終了”することがはっきりと認識できるようになり、集中して課題を次々にこなせるようになったそうです。

～校内の実践について思うこと～

これは1人の人間にとっては小さな一歩だが、
人類にとっては偉大な飛躍である。



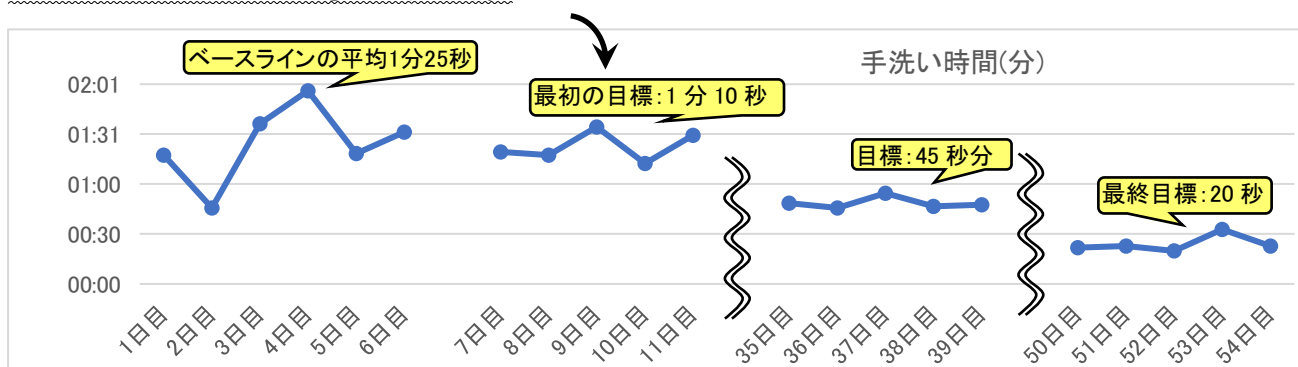
この言葉は、宇宙飛行士のニール・アームストロングが月面に着陸したときに発した言葉です。私は校内を巡回しているときに、この言葉がしょっちゅう頭に浮かびます。上の例以外のことと言えば、朝の会や学習場面で色々なVOCA(Voice Output Communication Aids；音声出力会話補助装置)を活用して手助けの要求や返事の発信、「昨日は家でテレビを見て過ごしました。」といった報告の場がその1つです。VOCAやPECSを活用するのは、音声でしゃべれる人からすると奇異に見えるかもしれませんが、音声で発信することが難しくても、コミュニケーション・スイッチを自分で押して発信するのは、たとえスイッチを押すという単純な行為であっても、その発信に少しでも自分が主体的に

関わったという経験になります。傍から見るとスイッチを押すことの意味は分かりにくいかもしれませんが、このような指導を目にすると、子どもを“偉大な飛躍”に導くための教師の一球入魂の思いが込められているのを感じます。

～昨年度の実践報告～

中学部の B さんは、長い時間手を洗うというこだわりがあります。いつも決まったルーティンで気が済むまで手を洗っています。後ろで他の生徒が待っているときには、その都度教師が声をかけて早めに切り上げられるように促してきましたが、なかなか自分で気づいて手洗いを終えるには至りませんでした。そこで、無理なく手洗いの時間短縮を図ることになりました。

B さんには、以前タイマーを使って時間短縮を図ったことがあったのですが、最初から目標を 10 秒で切り上げることにしたので、結局終了を促す声かけを何度もせざるを得なくなり、タイマーを使う意味がなくなっていました。そこで、改めてまず B さんの手洗いの時間が一体どのくらいかかっているのか 6 日間計測しました。すると、6 日間の平均 1 分 25 秒（46 秒～1 分 57 秒）のベースラインのデータが取れたので、とりあえず、最初の目標は 1 分 10 秒に設定し、タイマーが鳴ったら手洗いの終了を促すようにし、タイマーが鳴ってから担任のカウント 10 以内に蛇口を閉めたらシールをもらえるというトークンシステムを導入しました。



すると、最初のうち（7日目～11日目）はタイマーが鳴ってもなかなか手洗いを切り上げることができませんでしたが、徐々にタイマーを意識して手洗いを終わることができるようになりました。最終的には 20 秒を目標にして（50日目～）自分でタイマーを設定して取り組めるまでになりました。



☆☆漸次（ぜんじ）的接近法☆☆

漸次的接近法とは、目標に向けて少しずつ到達していく（漸次的に接近する）方法を体系化したものを言います。“千里の道も一歩から”ということわざがありますが、一歩が大きすぎたり早すぎたりすると次の一歩が続きません。この一歩の踏み出し方について、B さんの事例の取り組みはほんの一例ですが、**アプローチの方法を考える**と同時に**目標を段階づけて継続する方法**を計画することも重要です。ポイントは上記の通りです。意外と、アプローチはいいのに段階づけて継続することに課題があることに気づくかもしれません。

- 📌 データ/記録を取る
- 📌 プロセスを分け目標を段階的に設定する
- 📌 表などを活用して可視化する
- 📌 動機づけに訴える/ご褒美を取り入れる